

あすなろ

2024年5月16日

みみレター

第2号

兵庫県立姫路聴覚特別支援学校

校内支援部（文責 松崎）

デフリンピックのルールについて

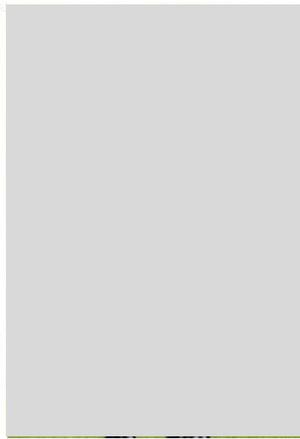
聞こえない人のスポーツの祭典「デフリンピック」が、2025年11月15日に東京で開幕します。デフリンピックのルールにはどのようなものがあるのでしょうか。

デフリンピックのルールは、ほぼオリンピックと同じです。ですが、「耳」が聞こえなくても、参加者がふりにならないよう「目」でわかる様々な工夫がされています。目で補うことを「しかくほしょう」と言います。

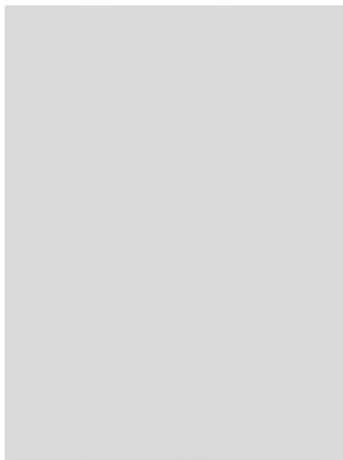
★「目」でわかる合図

例えば、100メートル走のスタートの出発音。光がピカッと光る『フラッシュランプ』でスタートを知らせます。『フラッシュランプ』は、バスケットボールやハンドボールなど、様々なスポーツでも活用されています。

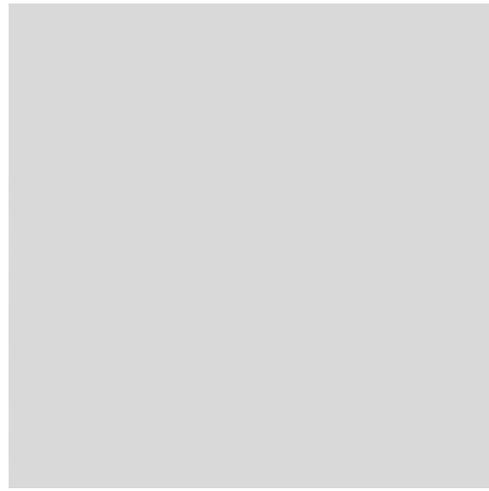
他にもサッカーやラグビーなど、審判の笛の合図はどのようにしているのでしょうか。審判は笛を鳴らすとともに、旗をあげたり、手をあげたりして選手に知らせます。選手が「目」でわかるように、様々な工夫が整えられています。



① サッカー競技では、手や旗をあげて選手に知らせる。



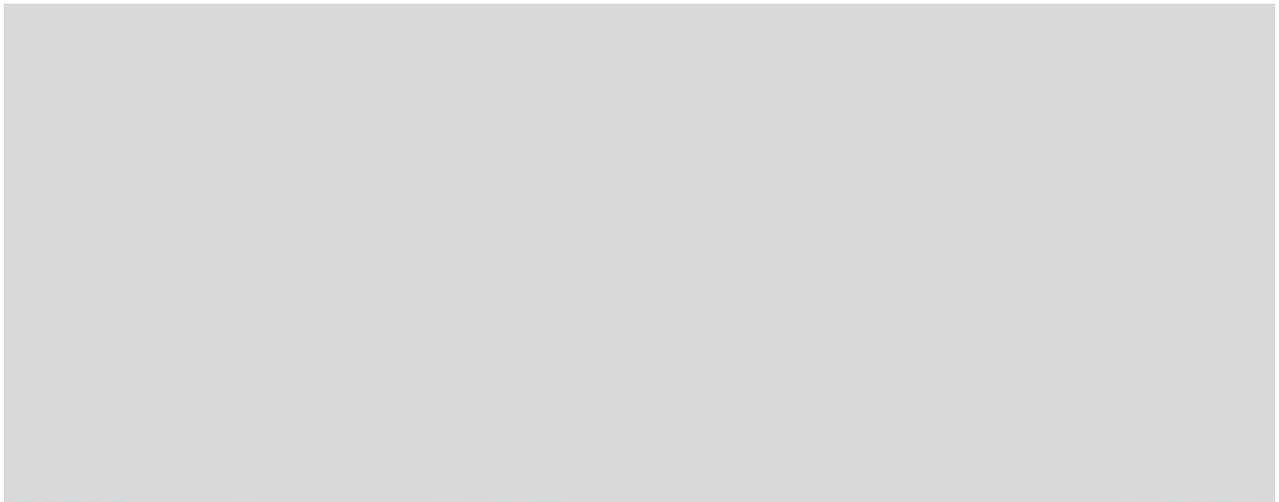
② 陸上競技のスタートランプと音響装置。スタート時に前のランプが点灯。後ろのスピーカーから音が鳴る。



せかいきょうつう 世界共通の「国際手話」

デフリンピックでは、「目」でわかる合図だけではなく、「国際手話」が活用されています。手話は世界共通ではありません。話し言葉と同じように国や地域によって異なり、例えばフランスはフランスの手話、中国には中国の手話があります。ですから聴覚障害のある外国人と意思の疎通をするためには、その人の国と手話を使う必要があります。

異なる手話どうしのコミュニケーションはとても困難です。そのため、国際交流の場で使われているのが手話の共通語である「国際手話」です。国際手話は、いろいろな国の人にとってわかりやすい身振りや表現で作られています。国際手話は、聴覚障害者（ろう者）の世界的な交流の場である「世界ろう者会議」や、国際的なろう者のスポーツ大会である「デフリンピック」などで公用語として使われています。



出典：話そう！手のことば 世界をつなぐ手話

<https://www.fukushi.metro.tokyo.lg.jp/shougai/koho/sekaiwotunagusyuya.file/s/gaikokunosyuya.pdf>



ほ ちよう き てん らい こう び 補聴器店 来校日

< 13:10~ 通級教室 >

5月 6月

□神戸ヒヤリングセンター

5月 23日 (木)

6月 13日 (木)

6月 27日 (木)

□トーション姫路補聴器センター

5月 17日 (金)

6月 7日 (金)

6月 21日 (金)